# 富山市定例市長記者会見（令和８年１１月２日）

## ■国勢調査の事案への対応について

【市長】

国勢調査をめぐる一連の件につきましては、市政に対する市民の信頼を大きく揺るがすものであり、極めて重大な事案として重く受け止めております。

現在、本市といたしましては、警察の捜査に全面的に協力しているところでございますが、今回の事案を決して一部の職員や特定の部局、部署だけの問題とすることなく、市役所全体の問題として深く重く受け止めなければならないと考えております。

そのため、組織風土の改革や組織体制の見直し、職員に対する研修の強化などを通じて、市役所全体のガバナンスを強化していく必要があると考えております。

また、今回の事案を招いた原因を明らかにし、実効性のある再発防止策につなげていくことが大切であると考えております。

今後は、警察による捜査の状況を注視しながら、しかるべき時期に、本市として必要な事実確認の調査や原因の究明と検証を行い、徹底した再発防止策の策定に取り組んでまいります。

現在、庁内におきまして、本市のガバナンス体制を強化し、全庁的なコンプライアンスの推進を図るため、組織体制の見直しや職員研修の強化について検討を進めております。

これらにつきましては、今月末を目途に、一定の方向性を固めてまいります。

今回の事案を市役所全体の組織のあり方を見直す契機といたしまして、職員一人ひとりが高い倫理観と強い責任感を持って職務に取り組むとともに、問題を組織全体で共有し、風通しの良い富山市役所を目指してまいり

ます。

市民の皆様方からの信頼を少しずつでも取り戻すため、私自身が先頭に立ち、組織を挙げて改革に取り組んでまいります。

## ■令和９年度予算編成方針について

【市長】

令和９年度予算編成方針を決定しましたので、その概要をお知らせいたします。

予算編成の基本的な考え方といたしましては、財政の健全性を堅持するため、市税等の一般財源の確保に努めるとともに、聖域なき歳出の抑制を図り、見込み得る一般財源の範囲内で、予算の重点的、かつ効率的な配分に努めること、また、市債の発行につきましては、できる限り抑制することを基本としております。

次に、事務事業のゼロベースでの見直しにつきましては、事業のスクラップ・アンド・ビルドや、毎年取り組んでおります事務事業評価など、あらゆる視点から徹底した見直しを行うことを基本として取り組んでまいります。

予算の重点的・効率的な配分のため、令和９年度の予算編成に当たっては、次の５つの取組を重点施策として設定いたします。

１つに、人口減少・少子化対策の強化による地域振興と子育て支援の充実、２つに、コンパクトシティ政策の深化とスマートシティの推進、３つに、防災・減災対策による安全・安心なまちづくりの推進、４つに、脱炭素社会の実現に向けた取組の強化、５つに、産業活力の向上と市民の暮らし支援による地域経済の活性化、

これらの５つの取組に対しまして、限られた財源の重点的・効率的な配分を行ってまいります。

なお、令和９年度当初予算は、通年予算として編成します。

次に、令和９年度予算要求基準について申し上げます。
政策的経費につきましては、一般財源ベースで、令和８年度当初予算額から、総合計画に位置付けられる事業については、マイナス１０％、総合計画以外の事業につきましては、マイナス２５％のシーリングを設定いたします。
ただし、例年同様、シーリングの枠外経費として、扶助費や継続費、雪対策事業費などについては、所要額としております。

経常的経費につきましては、義務的経費については、所要額、事務・施設管理的経費は、事業費ベースで、令和８年度当初予算額と同額の範囲内としております。

令和９年度予算では、昨年度に引き続き、特別枠として、「人口減少・少子化対策特別枠」を設定します。
昨年５月に設置した、「人口減少・少子化対策庁内検討会議」におきまして、今年度も引き続き、有効な対応策の検討を部局横断で行ってまいりましたが、その中で、事業効果が見込めるとされた新規事業につきまして、所要額を計上可能といたします。
また、令和８年度に「人口減少・少子化対策特別枠」として予算化され、令和９年度も継続して実施する事業につきましても、所要額を計上可能といたします。

厳しい財政状況にあっても、本市が未来に向かって発展し、市民一人ひとりが誇りと希望を持てる予算となるよう、全職員が一丸となって、柔軟、かつ大胆な発想で、あらゆる施策に創意と工夫を凝らして、予算編成に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、予算編成状況につきましては、今後も機会を捉えて報告させていただきます。当初予算案については、例年どおり、来年２月下旬の発表を予定しております。

以上が、令和９年度の予算編成方針の概要であります。
詳細については、参考資料としてお配りしている、「令和９年度予算編成方針」をご確認ください。

## ■プロ野球オールスターゲームレガシー事業の実施について

【市長】
去る７月２９日に開催されました「マイナビオールスターゲーム 2026」から、早くも３か月が経過いたしました。
実に３０年振りとなった今回の富山開催を、一過性のものとすることなく、後世に語り継がれる「レガシー」とするため、３つの関連事業を実施します。

まず、明日３日（火・祝）から９日（月）までの７日間、富山市民プラザにおきまして、ボールシティとやまプロジェクト実行委員会が主催となりまして、「マイナビオールスターゲーム 2026 レガシー展」を開催いたします。
この企画展では、読売ジャイアンツの坂本選手と西武ライオンズの岩城投手が、オールスターゲームの当日、実際に着用した練習用ユニフォームのほか、試合で使用したベース、会場の様子を伝える写真パネルなどを数多く展示し、あの興奮・熱狂、そして感動を振り返ることが出来る内容となっております。

また、レガシー展会期中の今月７日（土）には、特別イベントとしまして、阪神タイガースなどで活躍された元プロ野球選手の今岡真訪さんと井川慶さんをお招きし、ＭＣとのトークイベントを開催いたします。
お二人とも、オールスターゲームには複数回の出場という経験をお持ちで、ご自身のオールスターに関するエピソードなどをうかがえる貴重な機会となればと思っております。レガシー展とあわせて、お楽しみいただきたいと思います。

翌日８日（日）には、一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として全国各地で実施する、宝くじスポーツフェア「ドリー

ム・ベースボール」を富山市民球場アルペンスタジアムにおいて開催いたします。
　このイベントでは、ドリームチームを構成する元プロ野球選手２０名による小中学生を対象とした「少年少女ふれあい野球教室」や「ドリームチームと富山市選抜チームとの親善試合」などが行われます。
　ドリームチームには、読売ジャイアンツで活躍されました堀内恒夫さんや桑田真澄さん、中日ドラゴンズで活躍されました谷沢健一さんや福留孝介さんらが参加される予定となっております。
　また、公募により決定した一般の方が、ドリームチームの投手や打者に挑戦する「プロに挑戦」のコーナーや、ドリームチームの選手との「ホームラン競争」、また、ドリームチームのサイン入りバットやグローブなどが当たる「ドリーム抽選会」も実施いたします。

　１日を通して、子どもから大人まで野球を存分に楽しめるプログラムとなっております。是非、多くの方々にアルペンスタジアムにお越しいただきたいと考えております。

## ■「くすりのまちとやま巡りフェスタ２０２６」の開催について

【市長】
　子どもから大人まで、「くすりのまち富山」を学び、楽しめる体験イベント、「くすりのまちとやま巡りフェスタ 2026」を、１１月２１日（土）に、富山駅南北自由通路北側で開催いたします。

　このイベントは、昨年度から市内の製薬企業や薬関連団体などと連携して本市が開催するものであります。
　富山を訪れている観光客や多くの市民の皆さんに、３００年以上の歴史を誇る「薬都とやま」の歩みを学んでいただき、実際に体験していただくことで、「くすりのまち富山」の魅力を改めて認識し、実感してもらいたいと考えております。

　イベントの内容をご紹介いたします。
　普段なかなか見ることができない製薬企業の工場内部や製造工程の様子

をデジタル技術を用いて見学する「ＶＲ工場見学」や、生薬をすりつぶして香りを楽しむ「薬研体験」などのワークショップをはじめ、令和１０年に開館予定の「（仮称）とやまくすりミュージアム」を紹介するブースの設置や、「薬都探訪ツアー」と称した富山大学の薬用植物園等の見学や市内飲食店のやくぜんランチを味わうバスツアーなど、盛りだくさんの内容となっております。

なお、同日、富山駅南北自由通路の南側では、人気アニメの「劇場版　薬屋のひとりごと　亡妃の秘宝」の公開記念イベントが開催される予定であります。

ぜひ多くの皆様に両会場にお越しいただき、「くすりのまち富山」を存分にお楽しみいただきたいと考えております。

==========

## ■質疑応答

【記者】

市として実用化を目指している自動運転バスの事業が停滞していると伺っています。この現状を市長はどのように受け止めておられて、今後どのように事業を進めていくおつもりでしょうか。また、「レベル４」の実装時期について、いつまでに達成したいという市長の思いはあるか、お聞かせください。

【市長】

ご承知のとおり本市では、将来的な自動運転の実用化に向けまして、令和５年と令和６年に国の補助制度を活用しまして、「レベル２」の自動運転の実証実験を行ってまいりました。

この実証実験では、自動運転システムの判断能力や車両速度の安定性などについて、データを収集できたことは、一つの成果であったと考えております。私自身、実証実験の時に実際に乗車しましたが、思いのほかスムーズな走行で、非常に将来性を感じた次第であります。

一方で、富山市は雪国でありますので、冬場の降雪による視界不良などで自動運転の実用化には厳しい環境にあることも事実として捉えております。このため、本格的な導入には、降雪時の対応など技術面の更なる向上や高速通信環境（５Ｇ）の整備など、行政だけでは解決困難なハードルがいくつかあるものと認識しております。

こうした技術は日進月歩で進化している状況でありますので､「レベル４」の実装時期について「いつまでに達成する。」という断言は、現時点では明言できないと考えております。

しかしながら、人口減少の進展や運転手不足の深刻化を踏まえますと、将来的には公共交通等を支える重要な「手段」であることには間違いありません。富山市としても、引き続き情報収集に努めていきたいと考えております。

先週末､旭川で行われた中核市市長会で岐阜市長とお話ししたのですが、岐阜市は来年度から市内循環の自動運転がスタートするということでありました。

環境的には道路の幅員や市内の道路状況も含めて改良するところはあったのですが、良好な状態だと。積雪があまりないと、気候的にもある程度安定しているという中で、いよいよ実装に近付いてきましたというお話を伺って、私も意見交換させていただきましたが、岐阜市長の話を聞くにつれて、やはり雪国というのはなかなか難しいものがあるなと感じているところであります。

いずれにしても、富山市内の民間事業者などを含めて、まだいろいろと打合せを担当課レベルでやっておりますし、私もそのような経営者の方とお会いするたびに、自動運転技術、これはメーカーの方ですが、どれぐらい進んでいますかと意見交換したりしますので、決して諦めるということではなく、次の策を今練っている、情報収集しているというところだと思います。

==========

【記者】

先ほど市長は冒頭で、特定の部局の問題とすることなく組織風土の改革

を行うということで、今回の国勢調査の問題に関連して、原因の検証を市独自でも行っていきたいという旨をおっしゃったかと思いますが、これまでの会見と違う点と言いますか、今回新たに発表されたというのはどの点になるのでしょうか。

【市長】
　今回新たに発表したというのは、そのために組織をしっかり作って、庁内の調査をできるだけ早く、警察の捜査を見ながら、これは邪魔をするわけにはいかないので、その捜査のタイミングと庁内の調査のタイミングを少しずらすと言いますか、やはり落ち着いた中で進めなければいけないので、警察の捜査が終了するタイミングを見ながら、速やかに組織として対応していきたいと考えております。

==========

【記者】
　その点今回新たに検討されたということでしょうか。

【市長】
　そうですね､庁内調査をするということは以前から言っておりますので、しないという一部報道も見かけましたが、そのようなことは絶対にありませんので、必ずしっかり調査しますが、警察の捜査との兼ね合いでタイミングが少し前後すると認識していただければと思います。

==========

【記者】
　調査のやり方についてですが、外部の弁護士を入れた第三者委員という形をとるのか、庁内でグループを作って調査していくのか、どういった考えでしょうか。

【市長】
　庁内で調査チームを作って、該当者に調査をかけていくという形になります。チームでやっていくということになると思います。その結果を見な

がら、不十分であれば、もともとは第三者委員会というものは考えていませんという話をしていましたが、その設置について検討してまいりたいと考えています。

==========

【記者】
　先に庁内で調査をして、その結果を踏まえて第三者委員の設置について考えるということでしょうか。

【市長】
　はい、そうです。

==========

【記者】
　今回予算の編成方針を示されました。あるいは、新しい次期総合計画についても、かなり形が固まり、答申もされる予定かと思いますが、今回の国勢調査の件が、予算の編成や総合計画に与えた影響があるのかどうかお聞かせください。

【市長】
　直接今のところ与えたと言うよりも、市役所の今後の運営そのものに与える影響としては、やはり組織体制の見直しですよね、組織が硬直していないかと。また、ガバナンスですよね。統治体制がしっかりしていると。市長がトップですので、特別職がいて、部局長がいて、次長、課長がいてという中で、ガバナンスがしっかり効いているのかということを私も含めて再度振り返って、しっかり研修も含めて庁内を見つめ直していきたいと思います。その過程の中で、組織の改正というものが出てくるのではないかと思います。
　もう一つは、コンプライアンス研修ですね。もちろん富山市役所でもコンプライアンスに関する研修はたくさんやっていますが、それが本当にしっかりと職員の身になっているのかということも踏まえて、ガバナンスとコンプライアンスと組織ですね、これをしっかりとそこに位置づける位置づけないに限らず、来年の組織については、大きな影響を与えると考えて

います。

==========

【記者】

富山市としては、昨年はニューヨークタイムズや今年であるとオールスターゲームといったシティプロモーションがかなり良い方向に向かっていたかという時期でのこの国勢調査の問題が発生したということで、市の評判と言いますか、シティプロモーションに与える影響面をどのようにお考えでしょうか。

【市長】

私自身は冒頭に申し上げましたとおり、大変重大な事案と真摯に受け止めまして、市役所職員も同様であると思いますが、重要な事案、重大なことであると受け止めていると考えています。

その結果、富山市のイメージが今まで一生懸命やってきたシティプロモーションのプラス面のプロモーションに与えるダメージは少なからずあると考えています。このようなことは、全庁挙げて、外部の力も借りながら一生懸命取り組んできた訳でありますので、今後も一つ一つ、こつこつこつこつ積み上げてまいりたいと思いますが、その前に、やはり事実関係を捜査に協力しながら明らかにして、しっかりと市民の皆さんに説明をしていくということが、私の責任であると考えています。

==========

【記者】

組織改革について冒頭から言及されていますが、残念ながらこのような事件が起きてしまい、市長自身は組織としてどのあたりに問題があった、変えなければだめだということを教えてください。また、市長自身は、その問題があるということを感じるような場面の経験があるのかということを教えてください。

【市長】

どの部署であるとは言いませんが、一つはセクショナリズムですね。これはうちの（部署は）担当ではないので、この事業はうちの（部署は）関

係がないので協力しないという雰囲気は、やはりややもするとあるのではないかと日頃から感じています。ですから、部局横断でやるということは今結構進めていますので、その結果、部局の枠を取り払い、共同事業というものもいくつも生まれてきていますし､そのようなセクショナリズムが、せっかく良い前向きな事業をやる時の足かせになっているなと感じることはあります。

また、一つの部局が、これは国でも県でもどこでも同じですが、力を持つということはあると思います。例えば、政策に対する権限であるとか、予算に対する権限、人事に対する権限であるとか、やはりある部署がやる訳ですから、そのようなものが一か所に固まることによって、権限の集中が発生するということは組織の常ではないかと思っています。

そのようなことで、その結果、やはり風通しの悪い組織、硬直した組織になっているということがあると思いますので、例えば今回のような事象も問題を把握してから市長まで上がってくるのにラグがあるということも含めて、もっとスピーディーに風通しの良い組織、あるいはフラットな組織というものを、フラットというのは階級がフラットというのではなく上下関係なく何でも言い合える組織、このようなものを作っていく必要があるのではないかという意味でも、組織の改正をしていかなければだめだなと思います。

市長として感じられる場面というのは、やはりセクショナリズムと言いますか、縦割り、それは別の課が担当だからうちの課は関係ないということが多々今まではあったような気もしますし、ただし、一方これは自分の課が担当であるということは、皆さん一生懸命やってくれるんですね。ですから、二つの課でもっとシェアして、協力したらもっと良いものになるのではないかということが今まであったということです。

もう一つは、やはり先ほども言いましたが、情報ですよね。例えば、副市長のところや市長のところまで（情報が）上がってくるまでにピュアな情報がそぎ落とされてしまって、そぎ落とした部分が核心をついていた部分であったということが結構あるのです。ですから、重大な問題、些細な問題は関係なく、これは市長に上げなければだめだ、副市長まですぐに上げなければだめだと思ったらすぐに上がってくる、やはりそんな組織が大事なのではないかなということは結構常日頃感じています。

組織が大きくなれば、ある程度タイムラグが出てくるということはわかると思うのですが、そのようなところは職員の皆さんには、あまり気遣いすることなくどんどん上げてきてくださいと言っていますし、職員の皆さんは本当にきちんとした仕事をされますので、きちんとした報告資料を付けて出さなければならないという方も結構いらっしゃるんですね。そのようなものはいらないから、口頭で良いであるとか、箇条書きで良いからというふうに直していっていますし、いろいろと私が気が付いたことでは改善はしていっています。

==========

【記者】

今回の国勢調査は、市長のところに情報が上がってくるのは遅かったと思われるのでしょうか。

【市長】

そうですね。一番最初の記者会見か何かでお話ししたかと思いますが、総務省が来られたという報告が私にあったのは、総務省が来られてから３日か４日ラグがあったかと思います。おそらくそのような話を最初にしたかと思いますが、少しラグがあったと。そのようなことも含めて遅いなと思います。

==========

【記者】

悪い情報も全て上げてほしいということでしょうか。

【市長】

それはそうです。（総務省が）調査に来られたのですから、そうするとよほどのことだと普通は思うでしょう。

==========

【記者】

今月末を目途に組織体制の見直しの方針を発表するというお話しでしょうか。

【市長】
　どのような組織を目指していくかということ、現在の市役所の組織はありますが、どのような組織を目指していくかという方向性を示していくということであると思います。

==========

【記者】
　先ほどの質問にあったように、政策や予算、人事に関する権限をある程度グリップしている部局があるものを解体するという意味でしょうか。

【市長】
　今はそのようなところは全く白紙です。

==========

【記者】
　どのような形で発表されるのでしょうか。

【市長】
　やはり議会の皆さんにも相談もしなければなりませんし、議会の皆さんにも説明しなければなりませんので、そこは議会等と相談しながら、どのようなタイミングでどのようにやっていくかということを決めていきたいと思っています。

==========

【記者】
　今後、市で行うとおっしゃっておられた内部調査についてです。市長は警察の捜査のタイミングを見ながらとおっしゃっておられましたが、これは警察の捜査が終わった後、検察に送り、検察がもし起訴されたら、今度は裁判があり、裁判で有罪にするかどうかといろいろなステップがあると思いますが、このタイミングを見ながらというのは、警察の捜査が終わったタイミングのこと言っておられるのか、それとも、全て終わって裁判の結果が出るまでのことを言っておられるのでしょうか。

【市長】
　警察の捜査が終わったタイミングです。警察の捜査の中には、資料の提出や職員の聴取がありますので、そのようなことが一通り終わった、警察の捜査が終わった段階であると考えています。

==========

【記者】
　先ほど内部調査については、基本的には市の庁舎の中でチームを作り、第三者委員会のようなものを設置する可能性も完全には否定しないが、基本的には庁舎の中で行うということをおっしゃっておられました。市長は、繰り返し今日の冒頭にも、今回の問題は特定の部局や人の問題ではなく、市役所全体の問題であるとおっしゃっておられましたが、その意味であると、この問題を市役所の中の調査だけで片付けるということは少し適切ではないのではないかと感じる部分もあるのですが、この点についてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】
　私はそのようには感じていないです。やはり、しっかりとまずは、自分たちがやっていた作業手順や作業方法が、法令にきちんと照らし、それが正しいものであるかどうかも含めて、市役所の中の慣習で作業をしたり、仕事をしたりしているのではないかということも含めて、各部局からヒアリングを行うということもやりますし、もちろん当事者であるやそれに関わったことがあるということも含めて、今調査の対象を絞っているというところでありますし、その内部調査組織については、やはり特別職をトップとしたそれ相当のしっかりとした組織を作り、複数でヒアリングにあたるということですから、特に現段階では内部調査に関しては問題はないと考えています。ただ、先ほども言いました通り、その内部調査の結果を見て、第三者委員会の設置についても検討してまいりたいと考えています。

==========

【記者】
　今回の国勢調査の問題というのは、まさに市の内部で起きた問題であると認識しています、集計の段階で。庁内の調査チームで、特別職をトップで複数でヒアリングを行うということもありましたが、やはり少し内部だけで片付けるということは、中立性や公平性をどうやって担保するのかということが一つの大きな疑問になってくるかと思いますが、どうお考えでしょうか。

【市長】
　そのような一つの結論を導いたときには、外部評価委員会を立ち上げて評価していただくという方法もありますし、今おっしゃったような第三者委員会を設置して、外部の目でヒアリングも含めて検証してもらうということもありますし、そのようなことも含めて今検討してまいりたいと考えています。ただ、早急にすべきことは、内部調査であると思いますので、それはしっかりと早めにやっていきたいと思っています。

==========

【記者】
　内部調査も大事であると思うのですが、内部だけで、言ってしまえば、身内が身内を調べるという形で発表するということになると思います。その時に、その調査結果を信頼できるのかというところは、やはり疑問が残ると思いますし、それで不足であれば第三者委員会を検討という話もあったのですが、やはりこれは時間が経てば経つほど真相解明が難しくなるので、であればやはり最初から外部の有識者なり弁護士を入れて調査することが適切なのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】
　そのようなことも含めて、検討の材料とさせていただきます。ご意見いただきましてありがとうございました。

==========

【記者】
　先日、調査票の一覧リストの備考欄に、空家居住なしのメモを消した

跡があったとの情報がありまして、市職員が意図的に消したのではないかという疑いが浮上しています。この点については、どう受け止めていらっしゃいますか。

【市長】
　それが本当であれば、非常に残念なことであってはならないと思いますが、私個人のその事実に対することは、報道に対してはそうですが、あったかないかということについては警察の捜査に関わってきますので、私からはこれ以上のコメントは差し控えます。

==========

【記者】
　予算編成方針についてです。５つの重点施策について、今年度の予算編成方針とどこが違ったかと見ると、１つ目の人口減少・少子化対策の強化というのは、子育て支援より前に出てきたなということがありますし、４つ目の脱炭素社会と５つ目の産業活力のこの２点については、昨年はなかった項目かと思いますが、そのあたりは何か市長の方でお考えがあってのことなのでしょうか。

【市長】
　人口減少・少子化対策については、庁内横断の検討チームを立ち上げて継続的にやってきていますので、早急に対応しなければならない事案でありますので一つ目にもってきています。その中にもたくさんの事業が今生まれてきていますので、そのようなことで有効性が高いものを今チョイスできるような状況になってきていますので、できる限りそのような有効性が高いものについては実施していきたいなと思っています。

　また、脱炭素社会の実現に向けた取組の強化は、２０５０年のカーボンニュートラルに向けて、富山市はゼロカーボンシティ宣言をしていますので、これをいよいよ加速させないと難しいという局面に来ていますので、しっかりとそれを民間企業も入れながら、言ってみればサーキュラーエコノミーの部分も加味しながら、これは資源の循環なども含めてですが、ここの部分はしっかりと目に見える形で取り組んでまいりたい

と思っています。今までの富山市の環境未来都市、モデル都市、ＳＤＧｓ未来都市の取組だけではなく、より企業の皆さんが事業の実装というか、そのようなものも含めて参加していただく中で進めてまいりたいと思っています。

産業活力の向上と市民の暮らし支援による地域経済の活性化については、今高齢化社会でもあります。しかし、高齢者そのものは元気な時代でもありますし、非常にたくさんの経験もお持ちですし、産業活力を向上させていくためには、今の人手不足の解消やデジタル化を進めていかなければならないのですが、やはり少しの学び直しや暮らしの支援をすることで、その方々が地域経済の担い手になっていただけるというところもありますし、そのようなことをしっかり進めていきたいと思っています。また、やはり若い世代、特に女性の県外流出が進んでいますので、このようなところも含めて、若い女性の皆さん、若者が勤めやすい環境づくりというものも、産業づくりというか分野づくり、そのようなものを進めてまいりたいと思っています。

==========

【記者】

人口減少・少子化対策特別枠についてですが、令和８年度の特別枠を活用して行った事業の、これは試行的なものであったと思いますが、今現在の成果と言いますか、どのような効果が効いてきたかと、そこをどのように考えてらっしゃるのかということと、令和９年度の特別枠によって、例えば今年度より大体どれくらいの事業数を増やすお考えがあるのかお聞かせください。

【市長】

具体的な事業数については、担当課にお聞きください。今のところまだ私は全体枠しか把握していませんので、担当課に聞いていただければと思います。

今年度については、プラネタリウムを見たり、恋するセントラムと称してセントラムに乗ってみたりといろいろと実施していますが、今まさに実施している最中でありますので、まだ実施効果というものは見えて

いないと思います。もう終わったものも一つ二つあると思いますので、担当課に聞いていただければと思います。

==========

【記者】

先月末、プロ野球巨人の監督に松井秀喜さんが就任されたことで、市長も確か３０年前のオールスターゲームに松井さんらを見るために現地に行かれたかと思いますが、率直に監督就任にどのようなことを感じられたのかということと、巨人戦の富山開催が昨年ありましたが、今後の巨人戦開催には期待が高まるかと個人的には思いますが、そのあたりについてどのようなことを期待されるかお聞かせください。

【市長】

松井秀喜さんは、我々にとってみれば本当にすごい野球選手でして、お隣の石川県のご出身ということもありますし、本当にその松井さんが巨人軍の監督になっていただいて、心からおめでとうございますという祝福をさせていただきたいと思いますし、やはり人間的にも野球人としてだけではなく、人間的にも人間松井秀喜ということは大好きな方がたくさんおられますので、一つ明るい話題ではないかと思っています。

また、来年の巨人軍の富山開催については、こちらからお願いはしているところでありますが、巨人軍の試合がまたアルペンスタジアムであればいいなと思っています。まだ決まっていないと思います。

==========

【記者】

全国の自治体で不正アクセスや個人情報の流出が相次いでいます。市役所も市民や職員の情報を取り扱う立場として、それらをどうやって守っていくのか、強化したい、対策したいという考えがあれば教えてください。

【市長】

今回の不正アクセスによる情報流出については、富山市も大変厳しい現状だなと受け止めています。特に今ご指摘のありました個人情報がた

くさんありますので、まず外部からのインターネットを介しての個人情報を取り扱っている内部のネットワークと接続しない、遮断して使うということを大きな一つの防波堤にしています。このようなことを当たり前に徹底していきたいと思いますし、それでもやはり流出するリスクというものはありますので、このあたりについては、システムの管理会社や県、国とも相談しながら今進めているというところでありますが、いずれにしても根本的に国が、高市総理もこれは政府でやると宣言されましたが、しっかりと対応してもらわないとなかなか完璧な防御というのはできないのではないかと考えています。

==========

【記者】

国勢調査のことです。以前会見では、原因や不正に至った理由について、住民基本台帳との差を埋めるためではないかというお話をされていたかと思いますが、それから１か月が経ち、推測として今同じようなお考えなのでしょうか、それとも新たに何かお考えでしょうか。

【市長】

思いとしては同じですが、なぜこのようなことをやったのかという思いでいっぱいでありますが、しっかりとその原因、なぜそのようなことをやったのかということは究明していきたいなと思っています。

==========

【記者】

今のところ新たに何か理由についてわかったことはありますでしょうか。

【市長】

特にないです。

==========

【記者】

国勢調査に関する組織体制の見直しについてですが、今月末に一定の

方向性ということですが、来年度に向けての組織体制という認識でよろしいでしょうか。

【市長】
　来年度に向けての組織の見直しの方向性と、一部それを前倒しして市長直轄でやらなければならないということも出てくるかもしれませんので、その場合は前倒しして、私の直轄でやっていくことになると思いますが、いずれにしても議会と調整を図りながら、皆さんにお示ししたいと思います。

==========

【記者】
　市長直轄というのは、組織の中とは別に体制を作るというイメージでおられるのでしょうか。

【市長】
　現組織とは別のもので直轄でチームを作っていくということが、必要なことも出てくるかもしれないということです。

==========

【記者】
　それは、先ほど言われたコンプライアンスの推進であったり、また別のところに出てくるのでしょうか。

【市長】
　それも含めてですが、例えば調査も含めてですし、それも市長直轄になるかもしれないですし。

【
※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課